

其の三 村が直面している課題

一、高齢化による要介護老人の増加と若者定住人口の減少

下北山村は、六五歳以上の高齢者人口が平成十二年国勢調査の結果三八・四％と、国の平均を大きく上回る高齢化とともに、恒久的な過疎という極めて厳しい状況となっています。したがって、高齢者の健康保持、また、疾病予防、さらに寝たきり予防や認知症老人対策とともに、高齢者の社会参加に関わる諸施策を見直し、高齢者の多様なニーズに適応させる必要があります。

また、二〇歳から三九歳人口を国勢調査で見ますと平成二年二四一人、平成七年一九七人、平成十二年一九九人です。平成二年から平成十二年にかけて四十二人減少しています。赤ちゃん誕生一〇人を確保する上でも、若者定住者人口の減少をくい止める必要があります。

二、若者定住のための仕事場の確保

若者が定住するには、仕事場の確保が最も大切な事柄です。(財)下北山むらづくりセンターを中心とした、観光事業、社会福祉協議会(いこいの郷を拠点)を中心とした高齢者福祉事業、池原ダム・七色ダムの湖面を利用した貸し舟業等、新たな雇用の場が生れています。今後、若者定住、赤ちゃん誕生一〇人を達成する上でも、新たな雇用の場の創出が急務です。

三、自然環境の荒廃や遊休地の増加

其の二でもふれましたが、下北山村に残されている豊かな自然環境もよく見ると、ところどころ荒廃が目につきます。山林の五五%を占める人工林のうち手入れの遅れ、伐採後の放置林等、大雨や台風・地震時に大きな被害が、予想されます。下北山村の良好な自然環境の保全に努めるには、人工林のいきとどいた撫育を進めるとともに、山林の持つ公益的機能、特に保水力、水源涵養を重視した森林整備を実現し、大雨による土砂災害を未然に防ぐ治山・治水・砂防対策を進める。その方法は、自然環境に配慮しながら、環境の荒廃をくい止めます。田畑は、保水力に優れた自然環境に配慮したダムと言われ、増えつつける遊休地を活力ある農地に戻すとともに安全で住み良い住宅用地を確保していく必要があります。

四、都市的生活様式の進行と 下北山生活文化の衰退

都市化という名のもとに、進展してきた画一的な生活様式は、ここ下北山村においても生活様式の変化や農林業離れをはじめとして、村人の暮らしの中に大きく浸透してきています。それは、食生活や職業の選択にまで及び、都市住民と同じような価値観を身に付けた若い人達が増えつつあります。

下北山村の将来を考える上において、村としての自立と独自性を創造していくためには、今一度、下北山らしい暮らし、生活文化を掘り起こし、再生していく必要があります。

■村の人口と要介護認定者数の推移

	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
全人口	1,407	1,408	1,373	1,371	1,349
65歳以上人口	507	514	512	518	525
要支援	4	4	6	10	8
要介護1	10	11	12	12	18
要介護2	6	6	12	17	14
要介護3	6	10	11	13	13
要介護4	2	6	10	9	11
要介護5	4	3	6	8	8
計	32	40	57	69	72

全人口並びに65歳以上人口は、各年3月31日現在の数値を記載。
要支援から要介護5までは、各年10月末の数値を記載。